


いろいろな【環境ラベル】！

ラベル	名称・目的など
	エコマーク・・・ライフサイクル（商品の資源採取から廃棄・リサイクルまで）全体を考慮して、環境保全に役立つものとして認定された商品に表示される。 制度開始1989年
	省エネラベリング制度・・・エアコン・テレビ・冷蔵庫などの家電品で省エネ基準を達成しているかどうかを表示する。 橙色（左側）：省エネ基準の達成率100%未満の製品 緑色（右側）：省エネ基準の達成率100%以上の製品 制度開始2000年
	国際エネルギースタープログラム・・・待機時の消費電力に関する基準を満たすパソコンなどのオフィス機器に表示され、アメリカ・日本などで、協力して実施している。 制度開始1995年
	PCグリーンラベル・・・環境に十分配慮した設計・製造などの基準を満たしているパソコンに表示される。 制度開始2001年
	再生紙使用マーク・・・紙の中に含まれる古紙の割合を表示するもので、Rの横の数字が古紙の配合率となっている。 制度開始1995年
	グリーンマーク・・・トイレットペーパーやコピー用紙などで、原料に古紙を規定の割合以上利用している製品に表示される。 制度開始1981年
	PETボトルリサイクル推奨マーク・・・ペットボトルのリサイクル品を使用した、衣料・家庭用品・文房具などの商品に表示される。 制度開始1995年
	牛乳パック再利用マーク・・・使用済み牛乳パックを原料として使用したトイレットペーパー・紙トレーなどの商品に表示される。 制度開始1992年
	環境・エネルギー優良建築物マーク表示制度・・・室内環境水準を確保し、一定水準以上の省エネルギー性能を有する建築物に表示される。店舗、宿泊施設等を利用する際の選択肢としても生かされます。 制度開始1999年
	間伐材マーク・・・間伐材を用いた、床・壁板、テーブル、イスなどの製品に表示される。 制度開始2001年
	低排出ガス車認定（平成17年基準）・・・自動車の排出ガス低減レベルを示すもの。 制度開始2003年

シリーズ「なるほど共育」第8回

環境ラベルも、製品を選びませんか？

見つけよう環境ラベル

ものを新しく買いそろえるときは、環境にやさしい製品を選んで購入しませんか？
そんな時、目安になるのが、環境ラベルです。環境ラベルとは、製品を提供する企業が、その製品の環境的な情報を開示するためのマークです。

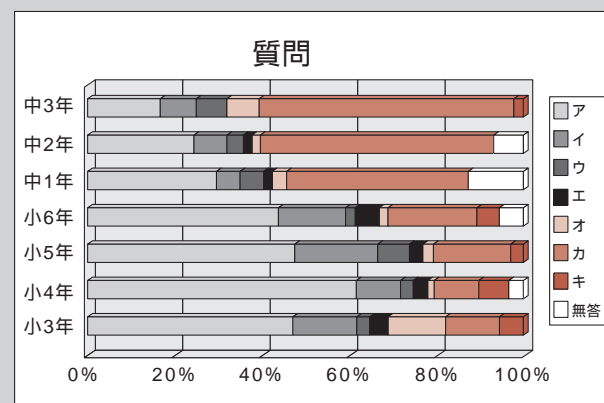
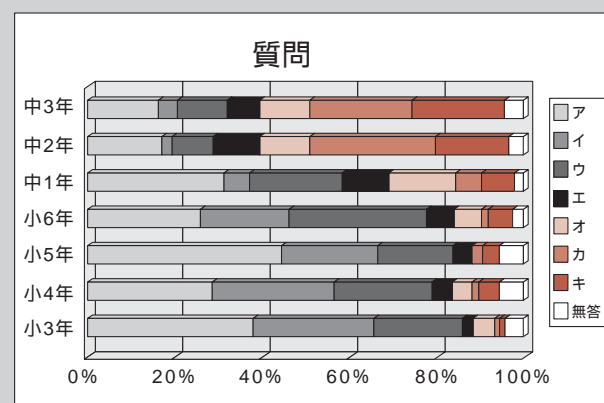
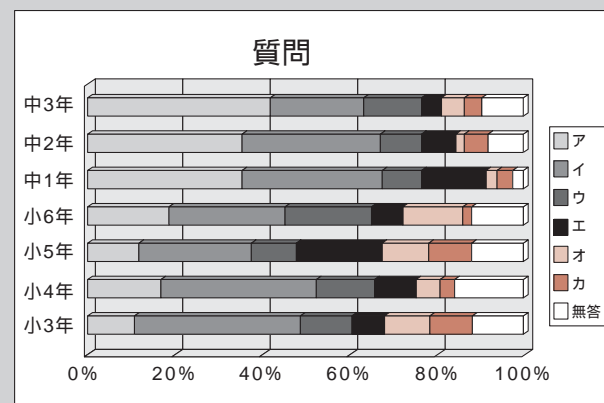
ISOの規格により、「環境ラベル」は、三つのタイプに分かれ、タイプ「環境の分野ごとに認定基準を設定し、第三者の審査機関が基準を満たしているか判定し付与するもの」・・・第三者認証型」やタイプ「製造者団体などが、独自の基準を設け、その基準を満たしているものに対してつけるもの」・・・自己宣言型」などがあります。ちなみに、表中のエコマークはタイプ「で、その他は、タイプとなりません。

ISO【国際標準化機構】・・・様々な製品の国際的な標準化規格を定めている組織。

自動車の燃費性能の評価及び公表に関する実施要領・・・自動車の燃費性能を示すもので、省エネ法の燃費基準を達成しているものと基準を5%以上上回る燃費性能を有するものに表示される
制度開始2004年

コメント
小学生は、どの学年も「スポーツ選手」になることが最も多く、中でも男子は野球、バスケットボール、サッカーの順、女子はバレーボール、ダンス、バドミントンの順となっています。
スポーツ以外の職業としては、中学生男子は、どの学年も「プロスポーツ選手」が最も多く、野球、サッカー、卓球、バスケットボールの順になっています。職業としては医師、教諭、弁護士、消防士、海上保安官、気象予報士、調理師など、女子は、スポーツ選手の希望はなく、保育士、看護師、美容師、パティシエ、獣医、教諭、漫画家、声優、DJなどを挙げていて、男女の特性が生かせるような専門的・個性的な職業が目立ちます。
小・中学生共通して、男子は「プロスポーツ選手」が圧倒的に多く、学年が進むにつれて個性を生かした専門的な職業へ「夢」が膨らんでいきます。

Q 希望する職業に就くにはどんな資格が必要で、それはどうしたら取得できるか、家族で話し合ってみましょう。
質問 あなたが、家の人にお話ししたいことは何ですか。
コメント
小学生は、どの学年も「小遣いを増やして」が最も多く、次に遊び道具を求める声が多くなっています。しかし、親子一緒に過ごす時間や家族団らんを求める姿もつかえます。さらに、高学年になるにつれて、食事や喫煙など健康に関する



ことや、両親の人間関係の改善を求める声も増えています。
中学生は、小学生同様「小遣いを増やして」が最も多く、次に「携帯電話を買って」などです。進路選択・決定が近づくにつれて、親との意見交換がかならずしも円滑にいつていない状況がつかえます。
思春期・受験期にあつて、感受性や自己主張が一層高まってくることから、彼らの心理的特性を周囲（家族）がよく理解し、適切な助言や支援に心がけることが何より大切でしょう。
小・中学生共通して、「小遣いを増やしてほしい」と願っています。

次に、小学生は家族の人間関係の改善要望が多くなっています。
周囲（大人）が学齢期の子どもの姿（身体的・精神的な発達や変調など）を的確に把握・理解し、何でも相談できる家庭、子どもの立場に立った適切な助言や支援ができる親となることが求められています。
おことわり：
質問 「先生や学校にお願いしたいことは何ですか。」は次号に掲載します。ご了承ください。